

図3

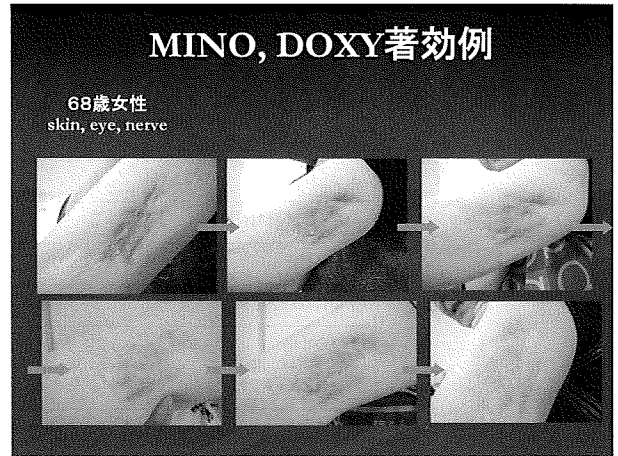


図5



図4

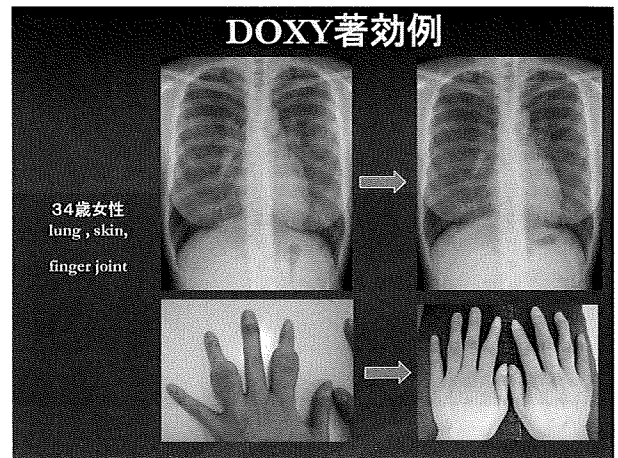


図6

BHLも出現し、皮膚・下腿を生検して確定診断となった。2008年3月から皮膚症状が悪化したため、2008年4月～2009年5月DOXY(ビブラマイシン[®])200mg/dayを14ヶ月内服したところ、図3上段に示すように皮膚病変が軽快した。めまい・手の冷感の副作用が出たため内服は中止している。

また図3下段は、サルコイドーシス皮膚病変、筋肉病変、BHL、全身症状がある58歳女性で、橋本病・尿路結石の既往歴がある。2005年から額に皮疹出現、2008年8月額の皮疹を生検し確定診断がついた。またこの頃からBHLもあり、下肢痛や足がつるような全身症状も出現。Gaシンチ施行したところ、上肢・下腿筋肉にも集積あるが、実際に触知は不可能である。2008年12月から現在に至るまでDOXY100mgを12ヶ月内服中である。額の皮疹は明らかに軽快している。

図4上段、図6は、サルコイドーシス皮膚病変、関節病変(手指)、肺病変がある34歳女性で、小児

喘息、扁桃摘除術施行の既往歴がある。2003年12月検診で胸部異常陰影を指摘され、その後膝に皮疹が出現、顔や指にも出現した。2004年3月膝の皮疹を生検し確定診断がつき、2008年5月～2009年10月DOXY200mg18ヶ月内服した。図4上段のように皮膚病変は軽快、関節病変も著効を示した。肺野病変も改善を認めた。(肺野病変の改善例は極めて少ない。)挙児希望のため現在は中止している。

図4下段は、サルコイドーシス皮膚病変、眼病変、BHL、全身症状がある49歳女性で、既往歴は特にない。2004年に左突発性難聴、2007年10月から顔面・肘・膝に皮疹出現し、2008年1月に顔面の皮膚生検で確定診断に至った。2007年12月飛蚊症となり、ブドウ膜炎の存在が認められた。2008年7月から乾性咳嗽、全身倦怠感も出現。2008年8月から現在までDOXY200mg/dayを15ヶ月内服している。皮膚病変は軽快、特に副作用も出現せず、内服継続可能である。

図5は、サルコイドーシス皮膚病変、眼病変、神経病変がある68歳女性で、既往歴は緑内障がある。2001年7月左顔面神経麻痺・右顔面神経麻痺が出現、ブドウ膜炎も発症した。両側上腕外側には皮膚病変も出現、この部分を生検し確定診断に至った。2006年5月～2008年3月関節痛に対しPSL2mg使用。2007年1月～MINO(商品名：ミノマイシン)100mg内服開始したところ、腕のサルコイドーシス皮膚病変に対して効果あり。MINOによる眩暈・胃腸障害があったため、2008年2月～10月DOXY100mgを9ヶ月内服。DOXYによる副作用は出現していない。

⑤ST + AZM投与群7例(男性2例, 女性5例)は平均年齢:43.3歳(20～58歳), 平均内服期間:3.2ヶ月, 評価対象症例の病変存在部位は眼病変:3例, BHL:3例, 肺病変:5例, 皮膚病変:4例, 筋肉病変:0例, 関節病変:1例, 神経病変:0例, 全身症状:0例であった。著効例はなく, 有効例が1例あり皮疹が軽快した。副作用は3例(3/7: 43%)発生し, 内訳は皮疹1例, 下痢1例, 白血球減少1例であった。

⑥CLDM + MINO投与群5例(男性1例, 女性4例)は平均年齢:40.4歳(20～55歳), 平均内服期間:5.4ヶ月, 評価対象症例の病変存在部位は眼病変:2例, BHL:4例, 肺病変:2例, 皮膚病変:4例, 筋肉病変:0例, 関節病変:1例, 神経病変:0例, 全身症状:0例であった。著効例はなく, 有効例が1例あり皮疹が軽快した。副作用は3例(3/5: 60%)で発生し, 内訳は胃痛2例, 頭痛1例であった。

⑦MINO + AZM投与群5例(男性3例, 女性2例)は平均年齢:35.4歳(20～55歳), 平均内服期間:5.4ヶ月, 評価対象症例の病変存在部位は眼病変:2例, BHL:3例, 肺病変:2例, 皮膚病変:2例, 筋肉病変:0例, 関節病変:1例, 神経病変:0例, 全身症状:0例であった。著効・有効例はなく, 副作用は1例(1/5: 20%)で発生, 内容は倦怠感であった。

⑧DOXY + AZM投与群5例(男性2例, 女性3例)は平均年齢:42歳(20～63歳), 平均内服期間:5.0ヶ月,

評価対象症例の病変存在部位は眼病変:3例, BHL:4例, 肺病変:2例, 皮膚病変:5例, 筋肉病変:1例, 関節病変:0例, 神経病変:0例, 全身症状:0例であった。著効例・有効例はなく, 副作用は1例(1/5: 20%)で発生, 内容は嘔気・嘔吐であった。

【結 論】

著効を示したのは, DOXY単剤投与群23例中7例(30.0%)であり, 全例でサルコイドーシス皮膚病変が軽快した。ST合剤単剤投与群・MINO単剤投与群ではそれぞれ有効例は14例中1例(7.1%), 15例中1例(6.7%)にとどまり, 他の群では著効例は見られなかった。また副作用発現率を単剤投与群で比べると, ST合剤・CLDM・MINOで皮疹・嘔気・胃部不快感・めまい・ふらつきが60-80%出現したのに対し, DOXY単剤群では23例中6例(26%)と低値であった。

【考 察】

DOXY単剤投与群は有効率が高かったと言える。特に皮膚病変に対して著効を示した印象である。胃腸障害やめまいの副作用出現率もMINOに比べ少なく, 内服継続が可能である。今後治験を組んでいくにあたっては, 効果が期待でき副作用の少ないDOXY単剤治療がよいと考える。

【参考文献】

- 1) Bacheletz et al., The use of tetracyclines for the treatment of sarcoidosis. Arch Dermatol 2001; 137:69-73
- 2) 山口哲生 他; テトラサイクリンによるサルコイドーシスの治療. 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会雑誌 2008; 28: 41-47

C. びまん性汎細気管支炎

びまん性汎細気管支炎の疾患感受性遺伝子研究

土方美奈子¹ 松下 育美¹ 伊藤 秀幸² 大橋 順³ 徳永 勝士¹
本間 栄^{5*} 田口 善夫^{6**} 吾妻安良太^{7*} 工藤 翔二⁸ 慶長 直人^{1**}

びまん性汎細気管支炎 (DPB) の疾患感受性候補領域の中には、我々がクローニングした新規ムチン様遺伝子などいくつかの遺伝子が存在しているが、これらの遺伝子のヒト気道上皮細胞での役割については不明の点が多い。ヒト気道上皮細胞を用いてムチン様遺伝子の発現を RT / real time PCR で検討したところ、mRNA 発現が気相液相培養・炎症刺激により誘導されることがわかった。遺伝的多型により発現量や刺激時の発現パターンに違いがみられるか、今後さらに検討する必要があると思われる。

Expression of candidate genes in the susceptibility region of diffuse panbronchiolitis

Minako Hijikata¹, Ikumi Matsushita¹, Hideyuki Ito², Jun Ohashi³, Katsushi Tokunaga⁴,
Sakae Homma⁵, Yoshio Taguchi⁶, Arata Azuma⁷, Shoji Kudoh⁸ and Naoto Keicho¹

¹ Department of Respiratory Diseases, Research Institute, International Medical Center of Japan

² Department of Thoracic Surgery, Toyama Hospital, International Medical Center of Japan

³ Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba

⁴ Department of Human Genetics, Graduate School of Medicine, University of Tokyo

⁵ Department of Respiratory Diseases, Toho University School of Medicine

⁶ Department of Respiratory Medicine, Tenri Hospital

⁷ Fourth Department of Internal Medicine, Nippon Medical School

⁸ Fukujiji Hospital

Diffuse panbronchiolitis (DPB) is a complex genetic disease affecting East Asians and is strongly associated with the class I human leukocyte antigens (HLA) -B54 in Japan and HLA-A11 in Korea. We recently showed that an HLA-associated major susceptibility gene for DPB is probably located within the 200kb in the class I region 300kb telomeric of the HLA-B locus on the chromosome 6p21.3. We cloned novel mucin-like genes in the candidate region. We investigated the mRNA expression of the genes in human bronchial epithelial cells and found that the expression was upregulated in air-liquid interface culture and by some inflammatory stimuli.

はじめに

びまん性汎細気管支炎 (diffuse panbronchiolitis, 以下DPBと略す) は、アジア系集団にみられるHLA class I関連疾患である。日本人ではHLA-B54との関連が非常に強いことはいくつかの報告で確認されているのに対し¹⁾、韓国人ではHLA-B54との関連はなく、かわりにHLA-A11との関連が強いとされた²⁾。このことから、HLAそのものがDPBに関連しているのではなく、HLA-B遺伝子座とHLA-A遺伝子座の間にDPBの疾患感受性遺伝子が存在するという仮説がたてられ、マイクロサテライトマーカーなどの遺伝マーカーを用い、候補領域はおおよそS遺伝子からTFIIH遺伝子までの200kbまでせばめられた³⁾。この200kbの領域をさらに一塩基多型 (single nucleotide polymorphism; SNP)を用いて検討したところ、候補領域は80kbまでせばめられたが、この80kbの領域は非常に連鎖不平衡の強い領域であるために、複数の遺伝子多型が同程度に疾患に関連しており、関連解析によるそれ以上の絞り込みは困難と思われた。一方で我々は候補領域内で新規遺伝子のクローニングを試み、2つのムチン様遺伝子(G2, G4)をクローニングした。既に報告されたDPCR1遺伝子⁴⁾とMUC21遺伝子⁵⁾をあわせると、候補領域内は4つのムチン様遺伝子がクラスターとなっている。

ムチンには繰り返し構造があり、そのユニット数が可変であるVNTR (variable number of tandem repeat) 領域が存在する場合があるため、上述のSNPを用いた関連解析のみならず、ムチン様遺伝子のエクソン内のVNTRも用いてDPBとの関連を検討したが、日本人集団ではHLA-B*5401との関連が非常

に強く、HLA-B*5401を超える強い関連を有する遺伝的多型はムチン様遺伝子のエクソン領域に現在のところ同定されていない。

昨年度、二つの新規遺伝子のうち、気道上皮細胞での発現が認められたG4遺伝子について、今年度我々は、気道におけるその役割を検討するため、初代培養ヒト気道上皮細胞を気相液相培養により再分化させ、mRNA発現をRT/real time PCRによって解析した。

対象と方法

国立国際医療センター戸山病院の呼吸器外科において、同意の上で提供をうけた切除肺・気管支の一部より、気道上皮細胞を得て初代培養を行った。一部は気相液相培養を行った。

RNeasy Mini Kit (Qiagen)にてtotal RNAを抽出した後、total RNA 1 μ g・SuperScriptIII reverse transcriptase (Invitrogen)・pd (N)⁶⁾ (TaKaRa)を用いて逆転写反応を行った。

200kbの候補領域にあるムチン様遺伝子について、増幅産物が約200～300bpの範囲になるようなRT/PCR用のプライマーを作成した。イントロンを間にはさむように設計したので、ゲノムDNAの増幅とcDNAの増幅の区別は可能である。Real time PCR系は、同上プライマーを用いて、SYBR Premix Ex Taq (TaKaRa)により構築した。RT/PCRのコントロールとしてはGAPDHを使用した。

(倫理面への配慮)「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」に準拠した当センターの遺伝子解析に関する倫理委員会の承認を受けている。

結 果

(1) G4遺伝子のmRNA発現

昨年度の検討で、切除気管支から単離培養したヒト気道上皮細胞については、発現がみられたものの、その量は肺papillary adenocarcinoma由来のNCI-H441細胞株や肺組織と比べて低いことがわかってきた。また、我々が保有するヒト気道上皮初代培養細胞のパネルを用いて、HLA-B*5401の有無とG4遺伝子発現量を検討したが、HLA-B*5401を

¹ 国立国際医療センター 研究所 呼吸器疾患研究部

² 同・戸山病院 呼吸器外科

³ 筑波大学大学院人間総合科学研究科

⁴ 東京大学大学院医学系研究科人類遺伝学教室

⁵ 東邦大学 呼吸器内科

⁶ 天理よろづ相談所病院 呼吸器内科

⁷ 日本医科大学 内科学(呼吸器・感染・腫瘍部門)

⁸ 複十字病院

* びまん性肺疾患に関する調査研究班 研究分担者

** びまん性肺疾患に関する調査研究班 研究協力者

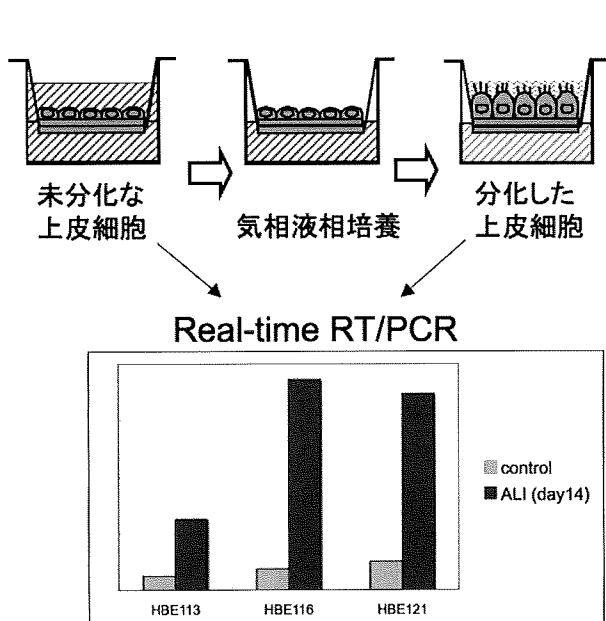


図1 気相液相培養における遺伝子発現解析

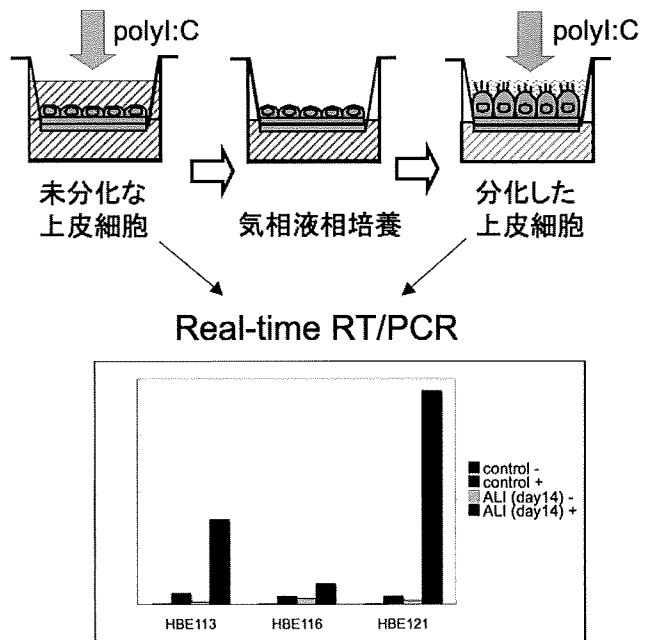


図2 炎症刺激時の遺伝子発現誘導

有する細胞が、有さない細胞と比較して、特に発現量が多いもしくは少ないという傾向は見られなかった。発現量が少ない状況での比較には限界があると考えられたため、今年度はまず気相液相培養で遺伝子発現の誘導がみられるかどうかを検討した。

図1に示すように、気相液相培養14日間行ったものでは、行わないものに比べて遺伝子の発現増強がみられた。

(2) 炎症刺激時のG4遺伝子の発現

昨年度の検討で、刺激により発現量に差異が生じるのかを比較するために、初代培養ヒト気道上皮細胞を6穴プレートで培養し、90% confluentでIFN- γ (10 ng/ml), IFN- β (1000 U/ml), Poly I:C (100 μ g/ml)の刺激を加え、24時間後に細胞を回収したところ、polyI:C刺激下でG4遺伝子の発現が誘導されることがわかっていった。今年度、気相液相培養を14日間行った細胞に対して同様にpolyI:C刺激を加えたところ、非常に強く遺伝子発現が誘導された。一方、この新規遺伝子の隣に位置するMUC21遺伝子の発現は、炎症刺激により大きな変化は認められなかった。

考案・結論

DPB疾患感受性候補領域内に新しくクローニングしたムチン様遺伝子のmRNAは、ヒト気道上皮

細胞において発現していたが、初代培養細胞での発現量が比較的少なかったため、今年度は気相液相培養を行ったところ、発現の増強が認められた。気相液相培養を行った時にはMUC5ACの遺伝子発現増強も認められており、この新規遺伝子も再分化に伴い発現が増加する性質から、気道上皮細胞において機能的意義を有するのではないかと思われた。昨年度の検討でpolyI:C刺激による発現誘導が認められていたため、次に、気相液相培養にpolyI:C刺激を加えたところ、著しい発現増強がみられた。今まで知られているムチン遺伝子の発現は基本的に恒常的なものが多く、このように刺激により著しく発現量に変化するものはない。今後は刺激時の発現量について、この遺伝子の遺伝的多型との関連などを検討する必要があると思われた。

これまでに行った患者対照関連解析の結果、最も強い関連を有していたのは、新規ムチン様遺伝子のexon 4の非同義置換を伴う単塩基多型であった。しかし、この遺伝子発現が誘導性に見られるのであれば、発現に関わる遺伝的多型の疾患への関与がある可能性も考えられ、今後の検討課題である。

このような検討を通して気道上皮細胞に発現する新規ムチン様遺伝子の役割を明らかにしていく必要があると考えられる。

参考文献

- 1) Sugiyama Y, Ohno S, Kano S, et al: Diffuse panbronchiolitis and rheumatoid arthritis: a possible correlation with HLA-B54. *Intern Med* 1994;33:612-4.
- 2) Keicho N, Tokunaga K, Nakata K, et al: Contribution of HLA genes to genetic predisposition in diffuse panbronchiolitis. *Am J Respir Crit Care Med* 199;158:846-50.
- 3) Park MH, Kim YW, Yoon HI, et al: Association of HLA class I antigens with diffuse panbronchiolitis in Korean patients. *Am J Respir Crit Care Med* 1999;159:526-9.
- 4) Keicho N, Ohashi J, Tamiya G, et al: Fine localization of a major disease-susceptibility locus for diffuse panbronchiolitis. *Am J Hum Genet.* 2000;66:501-7.
- 5) Matsuzaka Y, Tounai K, Denda A, et al: Identification of novel candidate genes in the diffuse panbronchiolitis critical region of the class I human MHC. *Immunogenetics* 2002;54:301-9.
- 6) Itoh Y, Kamata-Sakurai M, Denda-Nagai K, et al: Identification and expression of human epiglycanin/MUC21: a novel transmembrane mucin. *Glycobiology* 2008;18:74-83.

研究成果の刊行に関する一覧表

平成21年度 研究報告

英語論文(107報)

1. Daimon, T., Fujimoto, K., Tanaka, K., Yamamoto, J., Nishimura, K., Tanaka, Y., Yanagawa, M., Sumikawa, H., Inoue, A., Handa, O., Tomiyama, N., Nakamura, H., Sugiyama, Y., Johkoh, T.: Volume of pulmonary lobes and segments in chronic obstructive pulmonary diseases calculated using newly developed three-dimensional software. *Jpn J Radiol* 27: 115-22, 2009.
2. Daimon, T., Johkoh, T., Honda, O., Sumikawa, H., Ichikado, K., Kondoh, Y., Taniguchi, H., Fujimoto, K., Yanagawa, M., Inoue, A., Tomiyama, N., Nakamura, H., Sugiyama, Y.: Nonspecific interstitial pneumonia associated with collagen vascular disease: analysis of CT features to distinguish the various types. *Intern Med* 48: 753-61, 2009.
3. Mato, N., Fujii, M., Hakamata, Y., Kobayashi, E., Sato, A., Hayakawa, M., Ohto-Ozaki, H., Bando, M., Ohno, S., Tominaga, S., Sugiyama, Y.: Interleukin-1 receptor-related protein ST2 suppresses the initial stage of bleomycin-induced lung injury. *Eur Respir J* 33: 1415-28, 2009.
4. Shimaoka, Y., Tajima, S., Fujimoto, F., Yamabayashi, C., Moriyama, H., Terada, M., Takada, T., Suzuki, E., Bando, M., Sugiyama, Y., Narita, I.: Effects of IS-741, a synthetic anti-inflammatory agent, on bleomycin-induced lung injury in mice. *Lung* 187: 331-9, 2009.
5. Nakatsugawa M, Hirohashi Y, Torigoe T, Asanuma H, Takahashi A, Inoda S, Kiriyama K, Nakazawa E, Harada K, Takasu H, Tamura Y, Kamiguchi K, Shijubo N, Honda R, Nomura N, Hasegawa T, Takahashi H, Sato N. Novel spliced form of a lens protein as a novel lung cancer antigen, Lengsin splicing variant 4. *Cancer Sci.* 2009;100(8):1485-93.
6. Sawada K, Ariki S, Kojima T, Saito A, Yamazoe M, Nishitani C, Shimizu T, Takahashi M, Mitsuzawa H, Yokota S, Sawada N, Fujii N, Takahashi H, Kuroki Y. Pulmonary Collectins Protect Macrophages against Pore-forming Activity of Legionella pneumophila and Suppress Its Intracellular Growth. *J Biol Chem* (in press)
7. Kikuchi T, Watanabe A, Gomi K, Sakakibara T, Nishimori K, Daito H, Fujimura S, Tazawa R, Inoue A, Ebina M, Tokue Y, Kaku M, Nukiwa T. Association between Mycobacterial Genotypes and Disease Progression in Mycobacterium avium Pulmonary Infection. *Thorax.* 64:901-7, 2009
8. Yamashita M, Iwama N, Date F, Chiba R, Ebina M, Miki H, Yamauchi K, Sawai T, Nose M, Sato S, Takahashi T, Ono M. Characterization of lymphangiogenesis in various stages of idiopathic diffuse alveolar damage. *Hum Pathol* 40:542-51, 2009
9. Taniguchi H, Ebina M, Kondoh Y, Ogura T, Azuma A, Suga M, Taguchi Y, Takahashi H, Nakata K, Sato A, Takeuchi M, Raghu G, Kudoh S, Nukiwa T; Pirfenidone Clinical Study Group in Japan. Pirfenidone in idiopathic pulmonary fibrosis: A phase III clinical trial in Japan. *Eur Respir J.* 2009 In press
10. Ishimoto O, Ishida T, Honda Y, Munakata M, Sugawara S. Phase I study of daily S-1 combined with weekly irinotecan in patients with advanced non-small cell lung cancer. *Int J Clin Oncol*, 14(1): 43-7, 2009.
11. Hashimoto K, Mori S, Hashioto Y, Kaneko H, Ishibashi K, Ishioka K, Kawasaki Y, Peebles RS, Munakata M, Hosoya M, Suzutani T. DSCG reduces RSV-induced illness in RSV-infected mice. *J Med Virol*, 81(2): 354-61, 2009.
12. Tanino Y, Coombe DR, Gill SE, et al: Kinetics of chemokine-glycosaminoglycan interactions control neutrophil migration into the airspaces of the lungs. *J Immunol* 2010 (In Press).
13. Akashi T, Takemura T, Ando N, Eishi Y, Kitagawa M, Takizawa T, Koike M, Ohtani Y, Miyazaki Y, Inase N, Yoshizawa Y: Histopathological analysis of sixteen autopsy cases of chronic hypersensitivity pneumonitis and comparison with idiopathic pulmonary fibrosis/usual interstitial pneumonia. *Am J Clin Pathol* 131: 405-415, 2009.
14. Okayasu K, Ohtani Y, Takemura T, Uchibori K, Tamaoka M, Furuie M, Miyazaki Y, Inase N, Yoshizawa Y: Nonspecific interstitial pneumonia (NSIP) associated with anti-KS antibody: differentiation from idiopathic NSIP. *Intern Med* 48: 1301-1306, 2009.
15. Chiba T, Kawachi H, Kawano T, Kumagai J, Kitagaki K, Sekine M, Uchida K, Kobayashi M, Sugihara K, Eishi Y. Independent histological risk factors for lymphnode metastasis of superficial esophageal squamous cell carcinoma; implication of claudin-5 immunohistochemistry for expanding the indications of endoscopic resection. *Dis Esophagus.* 2009 Nov 9. [Epub ahead of print]
16. Ogiya A, Horii R, Osako T, Ito Y, Iwase T, Eishi Y, Akiyama F. Apocrinemetaplasia of breast cancer: clinicopathological

- features and predicting response. *Breast Cancer*. 2009 Sep 30. [Epub ahead of print]
17. Ugajin T, Kojima T, Mukai K, Obata K, Kawano Y, Minegishi Y, Eishi Y, Yokozeki H, Karasuyama H. Basophils preferentially express mouse mast cell protease 11 among the mast cell tryptase family in contrast to mast cells. *J Leukoc Biol* 2009. [Epub ahead of print]
 18. Koda H, Kimura Y, Ishige I, Eishi Y, Iino Y, Kitamura K. Quantitative cellular level analysis of mitochondrial DNA 3243A>G mutations in individual tissues from the archival temporal bones of a MELAS patient. *Acta Otolaryngol* 14:1-7,2009. [Epub ahead of print]
 19. Akashi T, Takemura T, Ando N, Eishi Y, Kitagawa M, Takizawa T, Koike M, Ohtani Y, Miyazaki Y, Inase N, Yoshizawa Y. Histopathologic analysis of sixteen autopsy cases of chronic hypersensitivity pneumonitis and comparison with idiopathic pulmonary fibrosis/usual interstitial pneumonia. *Am J Clin Pathol* 131(3):405-15,2009.
 20. Furukawa A, Uchida K, Ishige Y, Ishige I, Kobayashi I, Takemura T, Yokoyama T, Iwai K, Watanabe K, Shimizu S, Ishida N, Suzuki Y, Suzuki T, Yamada T, Ito T, Eishi Y. Characterization of *Propionibacterium acnes* isolates from sarcoid and non-sarcoid tissues with special reference to cell invasiveness, serotype, and trigger factor gene polymorphism. *Microb Pathog* 46(2):80-7,2009. Feb;46(2):80-7. Epub 2008 Nov 17.
 21. Toda E, Terashima Y, Sato T, Hirose K, Kanegasaki S, Matsushima K.: FROUNT is a common regulator of CCR2 and CCR5 signaling to control directional migration. *J Immunol*. 183(10):6387-94, 2009.
 22. Kofuku Y, Yoshiura C, Ueda T, Terasawa H, Hirai T, Tominaga S, Hirose M, Maeda Y, Takahashi H, Terashima Y, Matsushima K, Shimada I. : Structural basis of the interaction between chemokine stromal cell-derived factor-1/CXCL12 and its G-protein-coupled receptor CXCR4. *J Biol Chem*. in press, 2009.
 23. Kumamoto M, Nishiwaki T, Matsuo N, Kimura H, Matsushima K. : Minimally cultured bone marrow mesenchymal stem cells ameliorate fibrotic lung injury.. *Eur Respir J*. 34(3):740-8, 2009.
 24. Hashimoto S, Qu W, Ahsan B, Ogoshi K, Sasaki A, Nakatani Y, Lee Y, Ogawa M, Ametani A, Suzuki Y, Sugano S, Lee CC, Nutter RC, Morishita S, Matsushima K.: High-resolution analysis of the 5'-end transcriptome using a next generation DNA sequencer. *PLoS One*. 4(1):e4108, 2009.
 25. Sasaki S, Mello CC, Shimada A, Nakatani Y, Hashimoto S, Ogawa M, Matsushima K, Gu SG, Kasahara M, Ahsan B, Sasaki A, Saito T, Suzuki Y, Sugano S, Kohara Y, Takeda H, Fire A, Morishita S.: Chromatin-associated periodicity in genetic variation downstream of transcriptional start sites. *Science*. 323(5912):401-4, 2009.
 26. Taniguchi H, Ebina M, Knodoh Y, Ogura T, Azuma A, Suga M, Taguchi Y, Takahashi H, Nakata K, Sato A, Takeuchi M, Raguh G, Kudoh S, Nukiwa T, and Pirfenidone Clinical Study Group in Japan. Pirfenidone in Idiopathic Pulmonary Fibrosis: A phase III clinical trial in Japan. *Eur Respir J* (in press), 2009.
 27. Azuma A, Kudoh S, Nakashima M, Nagatake T. A double-blind study of Zaltoprofen for the treatment of upper respiratory tract infection. *Pharmacology*. (in press), 2009.
 28. Enomoto T, Azuma A, Kohno A, Kaneko K, Saito H, Kametaka M, Usuki J, Gemma A, Kudoh S. Differences in the clinical characteristics of *Pneumocystis jirovecii* pneumonia in immunocompromised patients with and without human immunodeficiency virus infection. *Respirology* (in press), 2009.
 29. Minegishi Y, Takenaka K, Mizutani H, Sudoh J, Noro R, Okano T, Azuma A, Yoshimura A, Ando M, Tsuboi E, Kudoh S, Gemma A. Exacerbation of idiopathic interstitial pneumonias associated with lung cancer therapy. *Intern Med* 48(9): 665-72, 2009.
 30. Taniuchi N, Ghazizadeh M, Enomoto T, Matsuda K, Sato M, Takizawa Y, Jin E, Egawa S, Azuma A, Gemma A, Kuddoh S, and Kawanami O. Evaluation of Fractional Analysis of Bronchoalveolar Lavage Combined with Cellular Morphological Features. *Int J Med Sci*. 6(1): 1-8, 2009.
 31. Kang D, Togashi M, Yamamoto M, Takahashi M, Kunugi S, Ishizaki M, Fukuda Y. Two forms of diffuse alveolar damage in the lungs of patients with acute respiratory distress syndrome. *Hum Pathol* 40:1618-27,2009
 32. Kawabata Y, Watanabe A, Yamaguchi S, Aoshima M, Shiraki A, Hatamochi A, Kawamura T, Uchiyama T, Watanabe A, Fukuda Y. Pleuropulmonary pathology of vascular Ehlers-Danlos syndrome: Spontaneous laceration, haematoma, and fibrous nodules. *Histopathol* in press 2009
 33. Sugino K, Kobayashi M, Iwata M, Gocho K, Kaburaki K, Muramatsu Y, Ishida F, Miyazaki T, Sato D, Sakaguchi M, Sano G, Kusano E, Isobe K, Sakamoto S, Takai Y, Shibuya K, Takagi K, Homma S: Successful treatment with pneumonectomy for pulmonary mycobacterium abscessus infection. *Intern Med*, 48:459-63, 2009

34. 9. Sekiya K, Sugino K, Hojo T, Ishida H, Sano G, Isobe K, Kimura K, Taniguchi M, Akiyama K, Homma S: Clinical evaluation of severe asthma attacks requiring tracheal intubation and mechanical ventilation. *Allergol Int* 58: 289–294, 2009
35. Sugino K, Gocho K, Ota H, Kobayashi M, Sano G, Isobe K, Takai Y, Shibuya K, Izumi H, Kuraishi Y, Shibuya K, Homma S: Miliary tuberculosis associated with chronic neutrophilic leukemia. *Intern Med*, 48:1283–1287, 2009
36. Sugino K, Kikuchi N, Kobayashi M, Muramatsu Y, Sano G, Kusano E, Isobe K, Sakamoto S, Takai Y, Hasegawa C, Shibuya K, Hatanaka K, Uekusa T, Homma S: A case of Churg–Strauss syndrome presenting with diffuse alveolar hemorrhage and rapidly progressive glomerulonephritis. *Intern Med*, 48:1807–1811, 2009
37. Sakamoto S, Homma S, Miyamoto A, Kurosaki A, Fujii T, Yoshimura K: Cyclosporin A treatment in acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis. *Intern Med*, 2009 in press
38. Isobe K, Hata Y, Sakamoto S, Takai Y, Homma S: Clinical characteristics of acute respiratory deterioration in pulmonary fibrosis associated with lung cancer following anti-cancer therapy. *Respirology*, 2009 in press
39. Tanaka T, Matsuoka M, Sutani A, Gemma A, Maemondo M, Inoue A, Okinaga S, Nagashima M, Oizumi S, Uematsu K, Nagai Y, Moriyama G, Miyazawa H, Ikebuchi K, Morita S, Kobayashi K, Hagiwara K. Frequency of and variables associated with the EGFR mutation and its subtypes. *Int J Cancer* in press
40. Morita S, Okamoto I, Kobayashi K, Yamazaki K, Asahina H, Inoue A, Hagiwara K, Sunaga N, Yanagitani N, Hida T, Yoshida K, Hirashima T, Yasumoto K, Sugio K, Mitsudomi T, Fukuoka M, Nukiwa T. Combined survival analysis of prospective clinical trials of gefitinib for non-small cell lung cancer with EGFR mutations. *Clin Cancer Res* 15:4493–8, 2009.
41. Kikuchi S, Kikuchi I, Takaku Y, Kobayashi T, Hagiwara K, Kanazawa M, Nagata M. Neutrophilic inflammation and CXC chemokines in patients with refractory asthma. *Int Arch Allergy Immunol* 149 Suppl 1:87–93, 2009.
42. Mori M, Takaku Y, Kobayashi T, Hagiwara K, Kanazawa M, Nagata M. *Int Arch Allergy Immunol*. 49 Suppl 1:31–8, 2009.
43. Inoue A, Kobayashi K, Usui K, Maemondo M, Okinaga S, Mikami I, Ando M, Yamazaki K, Saijo Y, Genma A, Miyazawa H, Tanaka T, Ikebuchi K, Nukiwa T, Morita S and Hagiwara K. First-line gefitinib for patients with advanced non-small cell lung cancer harboring epidermal growth factor receptor mutations without indication for chemotherapy. *J Clin Oncol* 27:1394–400, 2009.
44. Ishihara Y, Hagiwara K, Zen K, Huqun, Hosokawa Y and Natsuhara A. A case of Pulmonary Alveolar Microlithiasis with an intra-genetic deletion in SLC34A2 detected by a genome-wide SNP study. *Thorax* 64:365–7, 2009.
45. Iwasawa T, Asakura A, Sakai F, Kanauchi T, Gotoh T, Ogura T, Yazawa T, Nishimura J, Inoue T.: Assessment of prognosis of patients with idiopathic pulmonary fibrosis by computer-aided analysis of CT images. *J Thorac Imaging* 24(3):216–222, 2009.
46. Fujisawa T, S Velichko, P Thai, LY Hung, F Huang, and R Wu : Regulation of airway MUC5AC expression by IL-1 β and IL-17A; the NF- κ B paradigm. *the Journal of Immunology* 183 : ,2009.
47. Fujisawa T, Suda T, Matsuda H, Inui N, Nakamura Y, Sato J, Toyoshima M, Nakano Y, Yasuda K, Gemma H, Hayakawa H, Chida K, : Real-time PCR is more specific than conventional PCR for induced sputum diagnosis of Pneumocystis pneumonia in immunocompromised patients without HIV infection . *Respirology* 14 : 203–209,2009.
48. Kuroishi S, Suda T, Fujisawa T, Ide K, Inui N, Nakamura Y, Nakamura H, Chida K. : Epithelial-mesenchymal transition induced by transforming growth factor-beta1 in mouse tracheal epithelial cells.. *Respirology* 14(6) : 698–703,2009.
49. Ozawa Y, Inui N, Naito T, Yasuda K, Nagayama M, Shirai T, Suganuma H, Fujii M, Nakamura H, Suda T, Chida K : Phase II study of combination chemotherapy with S-1 and weekly cisplatin in patients with previously untreated advanced non-small cell lung cancer . *lung cancer* 63 : 68–71,2009.
50. Ozawa Y, Suda T, Nagata T, Hashimoto D, Nakamura Y, Enomoto N, Inui N, Koide Y, Nakamura H, Chida K. : Mucosal vaccine using CTL epitope-pulsed dendritic cell confers protection for intracellular pathogen.. *Am J Respir Cell Mol Biol* 41(4) : 440–448,2009.
51. Ozawa Y, Suda T, Naito T, Enomoto N, Hashimoto D, Fujisawa T, Nakamura Y, Inui N, Nakamura H, Chida K. : Cumulative incidence of and predictive factors for lung cancer in IPF.. *Respirology* 14(5) : 723–728,2009.
52. Shirai T, Komiyama A, Hayakawa H, Hashimoto D, Suda T, Chida K. : Eosinophil-associated gastrointestinal disorders with asthma: immunohistochemical analyses.. *Internal Medicine* 48(15) : 1315–1321,2009.
53. Suda T, Kaida Y, Nakamura Y, Enomoto N, Fujisawa T, Imokawa S, Hashizume H, Naito T, Hashimoto D, Takehara Y, Inui N, Nakamura H, Colby TV, Chida K. : Acute exacerbation of interstitial pneumonia associated with collagen vascular diseases.. *Respir Med* 103 : 846–53,2009.

54. Suzuki Y, Hayakawa H, Miwa S, Shirai M, Fujii M, Gemma H, Suda T, Chida K : Intravenous immunoglobulin therapy for refractory interstitial lung disease associated with polymyositis/dermatomyositis. *Lung* 187 : 201-206,2009.
55. Suzuki Y, Suda T, Furuhashi K, Suzuki M, Fujie M, Hahimoto D, Nakamura Y, Inui N, Nakamura H, Chida K. : Increased serum kynurenine/tryptophan ratio correlates with disease progression in lung cancer. *Lung Cancer* : ,2009.
56. Uto T, Takehara Y, Nakamura Y, Naito T, Hashimoto D, Inui N, Suda T, Nakamura H, Chida K. : Higher sensitivity and specificity for diffusion-weighted imaging of malignant lung lesions without apparent diffusion coefficient quantification. *Radiology* 252(1) : 247-254,2009.
57. Date H, Sweet SC. Lung and heart-lung transplantation. *Cardiol Young* 19 Suppl 1:45-8, 2009
58. Toyooka S, Waki N, Okazaki M, Kato K, Yamane M, Oto T, Sano Y, Date H. Recurrence lung cancer in the mediastinum noticed after a living-donor lobar lung transplantation. *Ann Thorac Cardiovasc Surg* 15(2):119-22, 2009
59. Shoji T, Bando T, Fujinaga T, Date H. Living-donor single-lobe lung transplant in a 6-year-old girl after 7-month mechanical ventilator support. *J Thorac Cardiovasc Surg* 2009 (Epub ahead of print)
60. Shiraishi T, Okada Y, Sekine Y, Chida M, Bando T, Minami M, Oto T, Nagayasu T, Date H, Kondo T. Registry of the Japanese Society of Lung and Heart-Lung Transplantation: the official Japanese lung transplantation report 2008. *Gen Thorac Cardiovasc Surg* 57:395-401, 2009
61. Akira M, Inoue Y, Kitaichi M, Yamamoto S, Arai T, Toyokawa K.: Usual interstitial pneumonia and nonspecific interstitial pneumonia with and without concurrent emphysema: thin-section CT findings. *Radiology* 251(1):271-9, 2009.
62. Akira M, Toyokawa K, Inoue Y, Arai T.: Quatitative CT in chronic obstructive pulmonary disease: Inspiratory and expiratory assessment. *AJR* 192:1-6,2009.
63. Shojima J, Tanaka G, Keicho N, Tamiya G, Ando S, Oka A, Inoue Y, Suzuki K, Sakatani M, Okada M, Kobayashi N, Toyota E, Kudo K, Kajiki A, Nagai H, Kurashima A, Oketani N, Hayakawa H, Takemura T, Nakata K, Ito H, Morita T, Matsushita I, Hijikata M, Sakurada S, Sasazuki T, Inoko H.: Identification of MICA as a susceptibility gene for pulmonary Mycobacterium avium complex infection. *J Infect Dis* 199(11):1707-15,2009.
64. Okada M, Kita Y, Nakajima T, Kanamaru N, Hashimoto S, Nagasawa T, Kaneda Y, Yoshida S, Nishida Y, Nakatani H, Takao K, Kishigami C, Inoue Y, Matsumoto M, McMurray DN, Dela Cruz EC, Tan EV, Abalos RM, Burgos JA, Saunderson P, Sakatani M.: Novel prophylactic and therapeutic vaccine against tuberculosis. *Vaccine* 27(15-26):3267-70,2009.
65. Ishii H, Trapnell BC, Tazawa R, Inoue Y, Akira M, Kogure Y, Tomii K, Takada T, Hojo M, Ichiwata T, Goto H, Nakata K.: Comparative study of high-resolution CT findings between autoimmune and secondary pulmonary alveolar proteinosis. *Chest* 136: 1348-1355, 2009.
66. Ohshimo S, Bonella F, Cui A, Beume M, Kohno N, Guzman J, Costabel U.: Significance of bronchoalveolar lavage for the diagnosis of idiopathic pulmonary fibrosis. *Am J Respir Crit Care Med* 179:1043-1047,2009.
67. Inoue H, Yamauchi K, Kobayashi H, Shikanai T, Nakamura Y, Kizawa T, Saotu J, Kohno N, Mishima M, Sasaki H, Hildebrandt J.: A new breath-holding test may non-invasively reveal early lung abnormalities caused by smoking and/of obesity. *Chest* 136:545-553, 2009.
68. Tanimoto T, Hattori N, Senoo T, Furonaka M, Ishikawa N, Fujitaka K, Haruta Y, Yokoyama A, Igarashi K, Kohno N.: Genetic ablation of Bach 1 gene reduces hyperoxic lung injury in mice: role of IL-6 article type. *Free Radic Biol Med* 46:1119-1126,2009.
69. Furonaka M, Hattori N, Tanimoto T, Senoo T, Ishikawa N, Fujitaka K, Haruta Y, Yokoyama A, Kohno N.: Suplatast tosilate prevents bleomycin-induced pulmonary fibrosis in mice. *J Pharmacol Exp Ther* 328:55-61,2009.
70. Onari Y, Yokoyama A, Haruta Y, Nakashima T, Iwamoto H, Hattori N, Kohno N. IL-12p40 is essential for the down-regulation of airway hyperresponsiveness in a mouse model of bronchial asthma with prolonged antigen exposure. *Clin Exp Allergy* 39:290-298,2009.
71. Wang W, Nishioka Y, Ozaki S, Jalili A, Verma VK, Hanibuchi M, Abe S, Minakuchi K, Matsumoto T, Sone S.: Chimeric and humanized anti-HM1.24 antibodies mediate antibody-dependent cellular cytotoxicity against lung cancer cells. *Lung Cancer* 63:23-31,2009.
72. Yamada T, Muguruma H, Yano S, Ikuta K, Ogino H, Kakiuchi S, Hanibuchi M, Uehara H, Nishioka Y, Sone S.: Intensification therapy with anti-parathyroid hormone-related protein antibody plus zoledronic acid for bone metastases of small cell lung cancer cells in severe combined immunodeficient mice. *Mol Cancer Ther* 8:119-26,2009.
73. Wang W, Nishioka Y, Ozaki S, Jalili A, Abe S, Kakiuchi S, Kishuku M, Minakuchi K, Matsumoto T, Sone S.: HM1.24 (CD317)

- is a novel target against lung cancer for immunotherapy using anti-HM1.24 antibody. *Cancer Immunol Immunother* 58: 967-976, 2009.
74. Izumikawa K, Akamatsu S, Kageyama A, Okada K, Kazuyama Y, Takayanagi N, Nakamura S, Inoue Y, Higashiyama Y, Fukushima K, Ishida T, Sawai T, Yoshimura K, Nakahama C, Ohmichi M, Kakugawa T, Nishioka Y, Aoki N, Seki M, Kakeya H, Yamamoto Y, Yanagihara K, Kohno S.: Evaluation of a rapid immunochromatographic ODK0501 assay for detecting *Streptococcus pneumoniae* antigen in sputum samples from patients with lower respiratory tract infection. *Clin Vaccine Immunol* 16: 672-678, 2009.
 75. Otsuka S, Hanibuchi M, Ikuta K, Yano S, Goto H, Ogino H, Yamada T, Kakiuchi S, Nishioka Y, Takahashi T, Sone S.: A bone metastasis model with osteolytic and osteoblastic properties of human lung cancer ACC-LC-319/bone2 in natural killer cell-depleted severe combined immunodeficient mice. *Oncol Res* 17;581-591, 2009.
 76. Wang W, Li Q, Yamada T, Matsumoto K, Matsumoto I, Oda M, Watanabe G, Kayano Y, Nishioka Y, Sone S, Yano S.: Crosstalk to Stromal Fibroblasts Induces Resistance of Lung Cancer to Epidermal Growth Factor Receptor Tyrosine Kinase Inhibitors. *Clin Cancer Res* 15: 6630-6638, 2009.
 77. Ikuta K, Yano S, Trung VT, Hanibuchi M, Goto H, Li Q, Wang W, Yamada T, Ogino H, Kakiuchi S, Uehara H, Sekido Y, Uenaka T, Nishioka Y, Sone S.: E7080, a Multi-Tyrosine Kinase Inhibitor, Suppresses the Progression of Malignant Pleural Mesothelioma with Different Proangiogenic Cytokine Production Profiles. *Clin Cancer Res* 15: 7229-7237, 2009.
 78. Kishuku M, Nishioka Y (Co-first author), Abe S, Kishi J, Ogino H, Aono Y, Azuma M, Kinoshita K, Rentsenhand B, Makino H, Ranjan P, Minakuchi K, Sone S.: Expression of Soluble Vascular Endothelial Growth Factor Receptor-1 in Human Monocyte-Derived Mature Dendritic Cells Contributes to Their Antiangiogenic Property. *J Immunol* 15:8176-8185, 2009.
 79. Yamamura K, Adachi T, Masuda T, Kojima Y, Hara A, Toda T, Nagase H, Intracellular protein phosphorylation in eosinophils and the functional relevance in cytokine production. Yamamura K, Adachi T, Masuda T, Kojima Y, Hara A, Toda T, Nagase H, Ohta K. *Int Arch Allergy Immunol*. 2009;149 S1:45-50.
 80. Watanabe M, Takata Y, Fukasawa S, Sakota K, Abe T, Goseki Y, Setoguchi Y, Chikamori T, Yamashina A.: Two patients with bepridil-induced interstitial pneumonia. *Circ J* 73: 1352-1355, 2009.
 81. Kishi K, Fujii T, Kurosaki A, Nakata K, Yoshimura K.: Recurrence of inflammatory pseudotumor of the lung after eleven years of remission. *Intern Med* 48:1079-1083, 2009.
 82. Kishi K, Fujii T, Kohno T, Yoshimura K.: Inflammatory pseudotumor affecting the lung and orbit. *Respirology* 14: 449-451, 2009.
 83. Uruga H, Kishi K, Fujii T, Beika Y, Enomoto T, Takaya H, Miyamoto A, Morokawa N, Kurosaki A, Yoshimura K.: Efficacy of gefitinib for elderly patients with advanced non-small cell lung cancer harboring epidermal growth factor receptor gene mutations: A retrospective analysis. *Intern Med* 49: 103-107, 2010.
 84. Fukumoto J, Harada C, Kawaguchi T, Suetsugu S, Maeyama T, Inoshima I, Hamada N, Kuwano K, Nakanishi Y.: Amphiregulin attenuates bleomycin-induced pneumopathy in mice. *Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol* 298:L131-138, 2010.
 85. Motohashi N, Kimura K, Ishii T, Wakabayashi R, Kurosaki H, Motegi T, Yamada K, Jones RC, Gemma A, Kida K.: Emphysema on imaging is associated with quality of life in elderly patients with chronic obstructive pulmonary disease. *Geriatr Gerontol Int*. 10(1):17-24, 2010
 86. Takiguchi Y, Tada Y, Gemma A, Kudoh S, Hino M, Yoshimori K, Yoshimura A, Nagao K, Niitani H.: Phase I/II study of docetaxel and S-1, an oral fluorinated pyrimidine, for untreated advanced non-small cell lung cancer. *Lung Cancer*. 2009 Sep 7. [Epub ahead of print] PMID: 19740565
 87. Tanaka T, Matsuoka M, Sutani A, Gemma A, Maemondo M, Inoue A, Okinaga S, Nagashima M, Oizumi S, Uematsu K, Nagai Y, Moriyama G, Miyazawa H, Ikebuchi K, Morita S, Kobayashi K, Hagiwara K.: Frequency of and variables associated with the EGFR mutation and its subtypes. *Int J Cancer*. 126(3):651-5. 2010, PMID: 19609951
 88. Seike M, Goto A, Okano T, Bowman ED, Schetter AJ, Horikawa I, Mathe EA, Jen J, Yang P, Sugimura H, Gemma A, Kudoh S, Croce CM, Harris CC. : MiR-21 is an EGFR-regulated anti-apoptotic factor in lung cancer in never-smokers. *Proc Natl Acad Sci U S A*. 106(29):12085-90, Epub 2009 Jul 13. PMID: 19597153
 89. Takizawa Y, Taniuchi N, Ghazizadeh M, Enomoto T, Sato M, Jin E, Azuma A, Gemma A, Kudoh S, Kawanami O.: Bronchoalveolar lavage fluid analysis provides diagnostic information on pulmonary Langerhans cell histiocytosis. *J Nippon Med Sch*. 76(2):84-92, 2009. PMID: 19443993

90. Ono H, Taniguchi Y, Shinoda K, Sakamoto T, Kudoh S, Gemma A.: Evaluation of the usefulness of spectral analysis of inspiratory lung sounds recorded with phonopneumography in patients with interstitial pneumonia. *J Nippon Med Sch.* 2009 Apr;76(2):67-75. PMID: 19443991
91. Isobe K, Kobayashi K, Kosaihiro S, Kurimoto F, Sakai H, Uchida Y, Nagai Y, Yamaguchi T, Miyanaga A, Ando M, Mori G, Hino M, Gemma A.: Phase II study of nimustine hydrochloride (ACNU) plus paclitaxel for refractory small cell lung cancer. *Lung Cancer* 66(3):350-4, 2009. Epub 2009 Apr 1. PMID: 19342118
92. Shimokawa T, Shibuya M, Kitamura K, Hosomi Y, Hibino S, Ota T, Iguchi M, Okamura T, Gemma A.: Retrospective analysis of efficacy and safety of amrubicin in refractory and relapsed small-cell lung cancer. *Int J Clin Oncol* 14(1):63-9, 2009. Epub 2009 Feb 20. PMID: 19225927
93. Inoue A, Kobayashi K, Usui K, Maemondo M, Okinaga S, Mikami I, Ando M, Yamazaki K, Saijo Y, Gemma A, Miyazawa H, Tanaka T, Ikebuchi K, Nukiwa T, Morita S, Hagiwara K; North East Japan Gefitinib Study Group.: First-line gefitinib for patients with advanced non-small-cell lung cancer harboring epidermal growth factor receptor mutations without indication for chemotherapy. *J Clin Oncol.* 20;27(9):1394-400, 2009. Epub 2009 Feb 17. Erratum in: *J Clin Oncol.* 2009 Jun 20;27(18):3071. PMID: 19224850
94. Kuribayashi H, Tsuta K, Mizutani E, Maeshima AM, Yoshida Y, Gemma A, Kudoh S, Asamura H, Matsuno Y.: Clinicopathological analysis of primary lung carcinoma with heterotopic ossification. *Lung Cancer.* 2009 May;64(2):160-5. Epub 2008 Sep 25. PMID: 18819725
95. Hang NTL, Ishizuka N, Keicho N, Hong LT, Tam DB, Thu VTX, Matsushita I, Harada N, Higuchi K, Sakurada S, Lien LT : Quality assessment of an interferon-gamma release assay for tuberculosis infection in a resource-limited setting. *BMC Infect Dis* 9:66,2009.
96. Keicho N, Itoyama S, Kashiwase K, Phi NC, Long HT, Ha LD, Ban VV, Hoa BK, Hang NTL, Hijikata M, Sakurada S, Satake: Association of HLA-class II alleles with SARS in the Vietnamese population. *Hum Immunol*70: 527-531, 2009.
97. Lien LT, Hang NTL, Kobayashi N, Yanai H, Toyota E, Sakurada S, Thuong PH, Cuong VC, Nanri A, Mizoue T, Matsushita I, Harada N, Higuchi K, Tuan LA, Keicho N : Prevalence and risk factors for tuberculosis infection among hospital workers in Hanoi, Viet Nam. *PLoS One*4(8):E67982009.
98. Mahasirimongkol S, Yanai H, Nishida N, Ridruechai C, Matsushita I, Ohashi J, Summanapan S, Yamada N, Moolphate S, Chuchotaworn C, Chairprasert A, Manosuthi W, Kantipong P, Kanitwittaya S, Sura T, Khusmith S, Tokunaga K, Sawanpanyalert P, Keicho N.: Genome-wide SNP-based linkage analysis of tuberculosis in Thais. *Genes Immun*10(1):77-83,2009.
99. Shojima J, Tanaka G, Keicho N, Tamiya G, Ando S, Oka A, Inoue Y, Suzuki K, Sakatani M, Okada M, Kobayashi N, Toyota E, Kudo K, Kajiki A, Nagai H, Kurashima A, Oketani N, Hayakawa H, Takemura T, Nakata K, Ito H, Morita T, Matsushita I, Hijikata M, Sakurada S, Sasazuki T, Inoko H.: Identification of MICA as a susceptibility gene for pulmonary Mycobacterium avium complex infection. *Infect Dis* 199(11):1707-1715,2009.
100. Uchida K, Nakata K, Suzuki T, Luisetti M, Watanabe M, Koch DE, Stevens CA, Beck DC, Denson LA, Carey B, Keicho N, Krischer JP, Yamada Y, Trapnell BC.: Granulocyte/Macrophage Colony-Stimulating Factor Autoantibodies and Myeloid Cell Immune Functions in Healthy Individuals. *Blood* 113(11):2547-2556, 2009.
101. Vollstedt S, Yuliwulandari R, Okamoto K, Lien LT, Keicho N, Rochani JT, Wikaningrum R, Tokunaga K.: No evidence for association between the interferon regulatory factor 1 (IRF1) gene and clinical tuberculosis. *Tuberculosis.* *Tuberculosis*89(1): 71-76, 2009.
102. Sumikawa H, Johkoh T, Ichikado K, Taniguchi H, Kondoh Y, Fujimoto K, Yanagawa M, Inoue A, Mihara N, Honda O, Tomiyama N, Nakamura H, Colby TV.: Nonspecific interstitial pneumonia: histologic correlation with high-resolution CT in 29 patients. *Eur J Radiol* 70: 35-40,2009.
103. Sumikawa H, Johkoh T, Yamamoto S, Yanagawa M, Inoue A, Honda O, Yoshida S, Tomiyama N, Nakamura H. Computed tomography values calculation and volume histogram analysis for various computed tomographic patterns of diffuse lung diseases. *J Compute Assist Tomogr* 33: 731-738, 2009.
104. Sakamoto K, Taniguchi H, Kondoh Y, Ono Y, Hasegawa Y, and Kitaichi M. :Acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis as the initial presentation of the disease. *Eur. Respir. Rev*18: 129 - 132, 2009.
105. Sakamoto K, Taniguchi H, Kondoh Y, Johkoh T, Sumikawa H, Kimura T, Nishiyama O, Kato K, Kataoka K, Ono K, Kitaichi M, Hasegawa Y.: Serum KL-6 in fibrotic NSIP: Correlations with physiologic and radiologic parameters. *Respir Med.*

104(1):127-33, 2010.

106. Kondoh Y, Taniguchi H, Kataoka K, Kato K, Suzuki R, Ogura T, Johkoh T, Yokoi T, Wells AU, Kitaichi M. :Prognostic factors in rapidly progressive interstitial pneumonia. *Respirology*15 : 257-264,2010
107. Taniguchi H, Ebina M, Kondoh Y, Ogura T, Azuma A, Suga M, Taguchi Y, Takahashi H, Nakata K, Sato A, Takeuchi M, Raghu G, Kudoh S, Nukiwa T.: Pirfenidone Clinical Study Group in Japan. Pirfenidone in idiopathic pulmonary fibrosis. *Eur Respir J*. Dec 8.[Epub ahead of print],2009.

日本語論文(104報)

1. 高橋弘毅, 白鳥正典: 特集・特発性肺線維症(IPF): 新しい線維化マーカー. *医薬ジャーナル*45(7):89-93,2009.
2. 高橋弘毅, 白鳥正典, 大塚満雄: 肺サーファクタント蛋白質(SP-A, SP-D): III. 生化学的検査[1], A. 蛋白関係: 血液・尿化学検査, 免疫学的検査. その数値をどう読むか(第7版)(1). *日本臨床*67(8):361-363,2009.
3. 高橋弘毅, 白鳥正典, 千葉弘文: III 診断の進歩: 3 肺線維症におけるバイオマーカーの最近の知見. *Annual Review 呼吸器*2010(永井厚志 他編): pp136-141, 中外医学社, 2009.
4. 高橋弘毅: VIII 間質性肺疾患: 2 特発性肺線維症. *呼吸器疾患最新の治療2010-2012(貫和敏博 他編)*: pp317-320, 南江堂, 東京, 2009.
5. 吉澤靖之, 稲瀬直彦, 宮崎泰成: 慢性過敏性肺炎をめぐって. *Annual Review 呼吸器*; 115-122, 中外医学社, 2009.
6. 林 宏紀, 阿部 信二, 蛸井 浩行, 福田悠 他8名:CPC, 著明な低酸素血症をきたし死亡した肝肺症候群の1例. *THE LUNG perspectives*. 17(3):224-230, 2009.
7. 山元滋樹, 福田 悠: 線維芽細胞および筋線維芽細胞, 臨床病態との関わり. *THE LUNG perspectives*.17:153-157, 2009.
8. 高橋美紀子, 福田 悠: 薬剤性肺障害の病理. *病理と臨床* 27:721-727, 2009.
9. 村松陽子, 杉野圭史, 菊池 直, 佐野 剛, 磯部和順, 高井雄二郎, 高木啓吾, 渋谷和俊, 本間 栄: シリコン豊胸術後50年を経て縦隔リンパ節炎にて発症したヒトアジュバンド病の1例. *日呼吸会誌*47: 237-241,2009.
10. 磯部和順, 秦 美暢, 杉野圭史, 高井雄二郎, 渋谷和俊, 本間 栄: 間質性肺炎合併肺癌の診断におけるFDG-PETの有用性の検討. *日呼吸会誌*47: 278-285,2009
11. 坂本 晋, 鍋木教平, 後町杏子, 石田文昭, 阪口真之, 佐藤敬太, 佐野 剛, 杉野圭史, 磯部和順, 黒崎敦子, 本間 栄: アジスロマイシンの再投与により再燃した肺胞出血の1例. *日呼吸会誌*47:337-341,2009
12. 坂本 晋, 鍋木教平, 阪口真之, 佐野 剛, 杉野圭史, 磯部和順, 渋谷和俊, 黒崎敦子, 植草利公, 本間 栄: Pemetrexed(alimta)による薬剤性肺障害が疑われた1例. *日呼吸会誌*47:415-420,2009
13. 杉野圭史, 磯部和順, 菊池 直, 村松陽子, 佐野 剛, 高井雄二郎, 本間 栄: 静脈血栓側塞栓症を合併した原発性肺癌患者の臨床的検討. *肺癌*49: 151-156,2009
14. Sugino K, Kobayashi M, Sato D, Sakaguchi M, Sano G, Kusano E, Isobe K, Sakamoto S, Takai Y, Homma S: Marked improvement after long-term sildenafil therapy for secondary pulmonary arterial hypertension: A report of two cases. *東邦医学会誌*, 56:227-233, 2009
15. 杉野圭史, 菊池 直, 山崎陽子, 石田文昭, 佐野 剛, 草野英美子, 磯部和順, 高井雄二郎, 大塚 創, 秦 美暢, 高木啓吾, 本間 栄: 自然気胸に対するOK-432による胸膜癒着療法 of 臨床的検討. *呼吸*28:530-536,2009
16. 磯部和順, 秦 美暢, 岩田基秀, 石田文昭, 鍋木教平, 後町杏子, 小林美奈穂, 阪口真之, 佐藤大輔, 佐野 剛, 杉野圭史, 草野英美子, 坂本 晋, 高井雄二郎, 渋谷和俊, 高木啓吾, 本間 栄: 多発薄壁空洞を形成した細気管支肺胞上皮癌の1剖検例. *日呼吸会誌*47:512-517,2009
17. 杉野圭史, 本間 栄: 閉塞性細気管支炎. *呼吸器科*, 15 : 416-423,2009
18. 杉野圭史, 村松陽子, 鍋木教平, 後町杏子, 岩田基秀, 山越志保, 石田文昭, 小林美奈穂, 阪口真之, 佐藤大輔, 佐野 剛, 草野英美子, 磯部和順, 坂本 晋, 高井雄二郎, 渋谷和俊, 植草利公, 本間 栄: クラリスロマイシンの効果が不十分で, アジスロマイシン変更後に著効したDPBの1例. *Therapeutic Research*,30:1308-1311,2009.
19. 杉野圭史, 蛇澤 晶, 植草利公, 畑中一仁, 阿部 寛, 本間 栄: 閉塞性細気管支炎における病理学的再構築および免疫組織学的検討. *厚生労働科学研究難治性疾患克服研究事業びまん性肺疾患に関する調査研究班平成20年*

- 度研究報告書, p255-262,2009
20. 土方美奈子, 松下育美, 伊藤秀幸, 森田敬知, 大橋 順, 徳永勝士, 本間 栄, 田口善夫, 吾妻安良太, 工藤翔二, 慶長直人: びまん性汎細気管支炎の疾患感受性遺伝子研究. 厚生労働科学研究難治性疾患克服研究事業びまん性肺疾患に関する調査研究班平成20年度研究報告書, p251-254,2009.
 21. 杉野圭史, 石田文昭, 村松陽子, 佐藤大輔, 阪口真之, 佐野 剛, 草野英美子, 磯部和順, 坂本 晋, 高井雄二郎, 建部順子, 盛田俊介, 西村千秋, 本間 栄: 特発性肺線維症におけるNAC単独吸入療法の効果とレドックス制御. 厚生労働科学研究「特発性肺線維症の予後改善を目指したサイクロスポリン+ステロイド療法ならびにNアセチルシステイン吸入療法に関する臨床研究」班平成20年度研究報告書, p13-18,2009.
 22. 本間 栄: 特発性肺線維症におけるNAC単独吸入療法の効果とレドックス制御. 厚生労働科学研究「特発性肺線維症の予後改善を目指したサイクロスポリン+ステロイド療法ならびにNアセチルシステイン吸入療法に関する臨床研究」班平成20年度研究報告書, p11-12,2009.
 23. 本間 栄, 村松陽子, 石田文昭, 杉野圭史, 坂本 晋, 吾妻安良太, 工藤翔二: 早期特発性肺線維症に対するN-アセチルシステイン吸入療法に関する前向き多施設共同治療研究-経過報告2-. 厚生労働科学研究「特発性肺線維症の予後改善を目指したサイクロスポリン+ステロイド療法ならびにNアセチルシステイン吸入療法に関する臨床研究」班平成20年度研究報告書, p48-54,2009.
 24. 本間 栄: 早期特発性肺線維症に対するN-アセチルシステイン吸入療法に関する前向き多施設共同治療研究-経過報告2-. 厚生労働科学研究「特発性肺線維症の予後改善を目指したサイクロスポリン+ステロイド療法ならびにNアセチルシステイン吸入療法に関する臨床研究」班平成20年度研究報告書, p45-47,2009.
 25. 廣田 直, 海老名雅仁, 太田洋充, 玉井ときわ, 小野 学, 久田 修, 大河内真也, 玉田 勉, 光石陽一郎, 本間 栄, 貫和敏博: サイクロスポリンAの線維化抑制効果に関する遺伝子発現プロファイリング. 厚生労働科学研究「特発性肺線維症の予後改善を目指したサイクロスポリン+ステロイド療法ならびにNアセチルシステイン吸入療法に関する臨床研究」班平成20年度研究報告書, p36-39,2009.
 26. 本間 栄: 早期特発性肺線維症に対するN-アセチルシステイン吸入療法に関する前向き多施設共同治療研究. 厚生労働科学研究「特発性肺線維症の予後改善を目指したサイクロスポリン+ステロイド療法ならびにNアセチルシステイン吸入療法に関する臨床研究」班平成18年度～20年度総合研究報告書, p22-24,2009.
 27. 本間 栄: 特発性肺線維症におけるNAC単独吸入療法の効果とレドックス制御. 厚生労働科学研究「特発性肺線維症の予後改善を目指したサイクロスポリン+ステロイド療法ならびにNアセチルシステイン吸入療法に関する臨床研究」班平成18年度～20年度総合研究報告書, p25-26,2009.
 28. 鍋木教平, 磯部和順, 阪口真之, 佐野 剛, 高井雄二郎, 本間 栄: 原発性肺癌に合併した癌性心膜炎における心膜癒着療法の有用性. 肺癌49: 994-998,2009.
 29. 本間 栄(分担): 膠原病性気管支・細気管支炎. 新臨床内科学第9版(高久史麿, 尾形悦郎, 黒川 清, 矢崎義雄監修) p70. 医学書院, 東京, 2009.
 30. 杉野 圭史, 本間 栄(分担): Stevens-Johnson症候群発症後に高度の閉塞性換気障害を認めた27歳女性. New 専門医を目指すケース・メソッド・アプローチ 8 呼吸器疾患(永井厚志編) p244-249. 日本医事新報社, 東京, 2009.
 31. 佐野 剛, 本間 栄(分担): 空洞形成性の多発結節影を呈した52歳女性. New 専門医を目指すケース・メソッド・アプローチ 11 感染症(山口恵三, 館田一博編) p103-108. 日本医事新報社, 東京, 2009.
 32. 杉野 圭史, 本間 栄(分担): 人アジュバント病. 呼吸器症候群 III(工藤翔二, 中田紘一郎, 永井厚志, 太田 健編) p657-660. 日本臨床社, 東京, 2009
 33. 酒井文和, 長谷川瑞江, 井上快児, 松尾有香: 薬剤性肺障害. 画像診断29(3):306-314,2009.
 34. 酒井文和: 肺ランゲルハンス組織球症の画像診断. 日本サルコイドーシス会誌29(1):86-87,2009.
 35. 長谷川瑞江, 酒井文和, 木村文子, 小倉高志: 非特異性間質性肺炎(NSIP)画像から. 日本胸部臨床68(1):12-19,2009.
 36. 酒井文和: 閉塞性細気管支炎の画像診断. 医学のあゆみ232(4):243-246,2009.
 37. 松村晃秀, 井上義一. 間質性肺炎に合併した肺癌手術一急性増悪とその予防策. 間質性肺炎と合併症一肺癌からメタボリック症候群まで. 医学のあゆみ229(8):598-602, 医歯薬出版, 2009.
 38. 井上義一, 杉本親寿, 新井徹, 北市正則, 坂谷光則. [特集] 稀少呼吸器疾患をめぐる最近の進歩. 肺ランゲルハンス細胞組織球症. 呼吸器科15(5):404-409 科学評論社, 東京, 2009.
 39. 井上義一. CASE25. 工務店勤務歴と肺結核の既往があり, 労作時呼吸困難を訴えて来院した64歳男性. New 専門医を目指すケース・メソッド・アプローチ 8 呼吸器疾患 P.232～P.243 日本医事新報社2009年6月20日第1版発行

40. 井上義一,新井 徹,橘 和延,高木 理博,北市 正則,深水玲子.4急性増悪と肺癌合併.〔特集〕特発性肺線維症(IPF). 医薬ジャーナル45(7):94(1856)-100(1862),医薬ジャーナル社,2009.
41. 井上 義一.ランゲルハンス細胞組織球症の病態と臨床:総括.シンポジウム.第29回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会総会.日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会雑誌;29:95-97,2009
42. 井上 義一.ランゲルハンス細胞組織球症の現状と最近の知見. 綜説.呼吸環 57(12): 1271-1280. 医学書院,2009.
43. 井上 義一.肺胞蛋白症.呼吸器疾患最新の治療2010-2012: 331-334.(株)南江堂, 2010.
44. 木下勝弘,埴淵昌毅,岸昌美,兼松貴則,西岡安彦,曾根三郎:心室頻拍をきたした肺扁平上皮癌心筋転移の1例. 日呼吸会誌47: 817-822,2009.
45. 曾根三郎,西岡安彦:胸水貯留.新臨床内科学(第9版)(高久史磨,尾形悦郎,黒川清,矢崎義雄 編):146-148,医学書院,東京,2009.
46. 西岡安彦,柿内聡司,曾根三郎:肺がんを標的とした分子標的治療薬の効果予測マーカー.がん分子標的治療研究実践マニュアル(日本がん分子標的治療学会 編):286-291,金芳堂,京都,2009.
47. 青野純典,西岡安彦:過敏性肺炎.まんがで読み解く呼吸器症例100(河野修典 監,横山彰仁,服部登 編):183-184,メジカルビュー社,東京,2009.
48. 青野純典,西岡安彦:Goodpasture症候群.まんがで読み解く呼吸器症例100(河野修典 監,横山彰仁,服部登 編):180-182,メジカルビュー社,東京,2009.
49. 西岡安彦,青野純典,岸 潤,東 桃代:線維化病変に対するイマチニブの効果.血液・腫瘍科59:181-188,2009.
50. 西岡安彦:肺線維症に対する分子生物学的アプローチ.呼吸と循環58:179-187,2010.
51. 西岡安彦,青野純典,東 桃代,牧野英記:「間質性肺炎の治療法の展開」-イマチニブ-呼吸と循環58(印刷中),2010.
52. 豊田優子,埴淵昌毅,吉嶋輝実,岸潤,西岡安彦,曾根三郎:重症肺結核による敗血症性ショックと急性呼吸促進症候群から救命しえた1例.日呼吸会誌48(印刷中),2010.
53. 清水健一郎,田井久量,桑野和善:Cellular NSIPを合併した抗OJ抗体陽性の抗ARS抗体症候群の1例.日本呼吸器学会雑誌48:45-48,2010
54. 清水健一郎,竹田 宏,田井久量,桑野和善:心嚢水を伴う完全型Heerfordt症候群を呈した家族性サルコイドーシスの1例.日本呼吸器学会雑誌48:113-117,2010
55. 桑野和善,河石 真,荒屋 潤:間質性肺炎に対するステロイド薬の使い方. Modern Physician 29:603-607,2009.
56. 桑野和善,皆川俊介,荒屋 潤:特発性肺線維症の薬物療法.呼吸と循環57:575-580,2009.
57. 桑野和善,木下 陽,中山勝敏:高齢者の間質性肺炎.日本老年医学会雑誌46:93-100,2009.
58. 桑野和善,皆川俊介,荒屋 潤:分子病態から見た肺線維症.日本内科学会雑誌98:1134-1139,2009.
59. 杉崎勝教:難治性サルコイドーシスについて. Annual Review 呼吸器 2010; p232-236.
60. 大久保仁嗣,瀬戸口靖弘 CT画像でみる市中肺炎 日本臨床微生物学会誌19:76-83,2009
61. 瀬戸口靖弘 間質性肺炎とSP-C遺伝子異常 日本肺サーファクタント界面医学会雑誌 40:103-109,2009
62. 中井美智子 瀬戸口靖弘 平滑筋腫,平滑筋肉腫 呼吸器症候群 新領域別症候群シリーズ 日本臨床別冊10 144-146,2009
63. 大久保仁嗣,瀬戸口靖弘 胸水検査 チャート内科診断学 富野康日己編 中外医学社 91-95,2009
64. 瀬戸口靖弘 抗アレルギー薬 93-97 呼吸器疾患最新の治療2010-2012 貫和敏博,杉山幸比古編 南江堂 東京 2010
65. 瀬戸口靖弘 webリソースの利用 分子呼吸器病 13:79-82,2009
66. 瀬戸口靖弘 呼吸器内科学を学ぶ若い医師へ 呼吸28:109-110,2009
67. 瀬戸口靖弘 メタボリックシンドロームは呼吸器疾患に影響を与えるか 呼吸28:348-360,2009
68. 瀬戸口靖弘 河野雄太 呼吸器疾患診断の進歩 遺伝子診断 呼吸と循環57:375-384,2009
69. 瀬戸口靖弘 間質性肺炎と遺伝子異常 胸部臨床 68:646-656,2009
70. 瀬戸口靖弘 久米聖子 特発性間質性肺炎と喫煙の関係 呼吸と循環57:1003-1007,2009
71. 小島康弘:びまん性肺疾患における気管支肺胞洗浄液中液性因子の網羅的検討. 帝京医学雑誌32(1):59-70,2009.
72. 長谷川好規:がん薬物療法学.V.抗悪性腫瘍薬の薬理学・薬力学・薬理遺伝学 2. 薬物動態・薬理学. 日本臨床(増刊号)67 Supple 1:332-336,2009.
73. 近藤征史,他:遺伝子多型,遺伝子変異と肺癌の個別化医療.治療学43:290-294,2009.
74. 長谷川好規:抗がん剤の薬理遺伝学.呼吸器科15:147-151,2009.

75. 長谷川好規：分化と統合.呼吸と循環 57:447, 2009.
76. 長谷川好規：癌における遺伝子と臨床. 抗癌薬の有害事象-イリノテカンの有害事象を主として-. 日本胸部臨床 68:628-35,2009.
77. 下方智也, 長谷川好規：診療科で注目される分子標的治療-呼吸器領域-. 現代医学 57:17-9,2009.
78. 倉田洋子, 他：外来喘息教室における薬剤師の役割とその効果について. 医療薬学 35:145-51,2009.
79. 進藤有一郎, 長谷川好規：1章B8 中等症での抗菌薬の使い方のコツは？抗菌薬のかしこい使い方(渡辺彰 編)：168-80, 南江堂, 東京, 2009.
80. 長谷川好規：第5章 発育異常と代謝性肺疾患. フレイザー 呼吸器病学 エッセンス(清水英治, 藤田次郎 編)：199-235, 西村書店, 東京, 2009.
81. 長谷川好規：第1章 肺がん薬物療法の基礎知識 3 抗がん剤の薬物動態. 肺がん薬物療法 Q & A(中西洋一 編)：22-26, 南江堂, 東京, 2009.
82. 進藤有一郎, 長谷川好規：医療ケア関連肺炎;何を選んでどう使うか？最新抗菌薬療法マニュアル(渡辺彰 編)：56-63, 新興医学出版社, 東京, 2009.
83. 谷野功典, 王新涛, 猪腰弥生, 斉藤香恵, 仲川奈緒子, 佐藤俊, 石井妙子, 福原敦朗, 二階堂雄文, 斉藤純平, 石田卓, 棟方充. 肺の線維化における syndecan-4 の役割. 分子呼吸器病 2010 ; 14 : 114-118.
84. 吉村邦彦, 宮本篤, 宇留賀公紀, 諸川納早, 米花有香, 岸一馬：IIP患者の手術時における急性増悪の予防的治療に関する実態調査と予防的治療の有用性および安全性の検討. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班. 平成20年度研究報告書;P77-81, 2009.
85. 吉村邦彦, 安斎千恵子：日本人CF症例のCFTR遺伝子変異に関する検討. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 難治性肺疾患に関する調査研究. 平成20年度研究報告書;P257-262, 2009.
86. 宇留賀公紀, 宮本篤, 米花有香, 榎本崇宏, 高谷久史, 諸川納早, 岸一馬, 吉村邦彦:Candida glabrata 膿胸の1例. 日呼吸会誌47(6):476-480,2009.
87. 伊藤忠明, 長谷部忍, 長谷川久巳, 岸一馬, 林昌洋：「外来において安全で有効な化学療法」を施行するための取り組み. 共済医報 58(2):126-128,2009.
88. 岸一馬, 黒崎敦子, 藤井丈士, 本間栄：ランゲルハンス細胞組織球症の臨床. 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会雑誌 29(1):8444-85,2009.
89. 宇留賀公紀, 黒崎敦子, 藤井丈士, 吉村邦彦：Pulmonary tumor thrombotic microangiopathy(PTTM)の臨床, 画像および病理学的特徴. 臨床放射線 54(1):27-32,2009.
90. 岸一馬, 黒崎敦子, 藤井丈士, 本間栄, 吉村邦彦：ランゲルハンス細胞組織球症の画像と臨床. 臨床放射線 54(1):33-38,2009.
91. 吉村邦彦：のう胞性肺疾患とその周辺疾患：診断と治療. 11)のう胞性気管支拡張症. 呼吸器科 15(4):345-352,2009.
92. 片岡健介, 谷口博之, 近藤康博, 木村智樹, 西山理, 加藤景介, 北市正則：5. 禁煙にて改善傾向を認めた非特異性間質性肺炎(NSIP type2)の一例. 間質性肺疾患研究会討議録 77th : 30-39 2009・1.
93. 近藤康博, 谷口博之：実地医家のための呼吸管理 呼吸管理の実際 マスク下人工呼吸の実際 1):どんな機器でどうはじめるか-NPPV導入基準と患者選択の実際-. 診断と治療 97 : 39-46 2009・1.
94. 谷口博之：特発性肺線維症の予後改善を目指したサイクロスポリン+ステロイド療法ならびにNアセチルシステイン吸入療法に関する臨床研究 1)fibrotic NSIPに対するステロイドパルス療法およびシクロスポリン+少量ステロイド療法の多面的評価 2)特発性肺線維症・急性増悪における非侵襲的陽圧人工呼吸療法(NPPV)の意義 3)間質性肺炎における sildenafil療法に関する研究. 特発性肺線維症の予後改善を目指したサイクロスポリン+ステロイド療法ならびにNアセチルシステイン吸入療法に関する臨床研究 平成18-20年度総合研究報告書 P. 66-71 2009・4.
95. 吾妻安良太, 工藤翔二, 臼杵二郎, 阿部信二, 瀬尾宣嗣, 松田久仁子, 貫和敏博, 海老名雅仁, 大田健, 長瀬洋之, 杉山幸比古, 坂東政司, 久保恵嗣, 山本洋, 横山俊樹, 工藤宏一郎, 泉信有, 山口哲生, 小倉高志, 橋場容子, 吉沢靖之, 稲瀬直彦, 瀬戸口靖弘, 阿部哲也, 千田金吾, 貝田勇介, 谷口博之, 片岡健介, 長谷川隆一, 田口善夫, 橋本成収, 井上義一, 橋和延, 長坂行雄, 家田泰浩, 迎寛, 石本裕士, 河野茂：特発性肺線維症の予後改善を目指したサイクロスポリン+ステロイド療法ならびにNアセチルシステイン吸入療法に関する臨床研究 特発性肺線維症の慢性進行期の予後改善, 急性増悪の予後改善を目指した治療法の開発研究. 特発性肺線維症の予後改善を目指したサイクロスポリン+ステロイド療法ならびにNアセチルシステイン吸入療法に関する臨床研究 平成18-20年度総合研究報告書

P. 17-21 2009・4.

96. 谷口博之：特発性肺線維症の予後改善を目指したサイクロスポリン+ステロイド療法ならびにNアセチルシステイン吸入療法に関する臨床研究 間質性肺炎における sildenafil療法に関する研究. 特発性肺線維症の予後改善を目指したサイクロスポリン+ステロイド療法ならびにNアセチルシステイン吸入療法に関する臨床研究 平成20年度研究報告書 P. 19-28 2009・4.
97. 谷口博之, 近藤康博, 長谷川隆一：NPPV ALI/ARDSに対するNPPV. 人工呼吸 26：14-19 2009・5
98. 谷口博之：急速進行性間質性肺炎. 間質性肺疾患研究会討議録 78th：216-140 2009・6
99. 麻生裕紀, 片岡健介, 加藤景介, 西山理, 木村智樹, 近藤康博, 谷口博之：亜急性に発症したDiscordant UIP+acute lung injuryの1例. 間質性肺疾患研究会討議録 78th：98-104 2009・6
100. 阪本孝司, 谷口博之, 近藤康博, 片岡健介：急性経過で発症したUIP+DADの1例. 間質性肺疾患研究会討議録 78th：93-97 2009・6.
101. 松田俊明, 谷口博之, 近藤康博, 片岡健介：Discordant UIP+Acute exacerbationの1例. 間質性肺疾患研究会討議録 78th：88-92 2009・6.
102. 村田直彦, 片岡健介, 加藤景介, 西山理, 木村智樹, 近藤康博, 谷口博之：BALでリンパ球増加の見られたorganizing DADの1例. 間質性肺疾患研究会討議録 78th：9-15 2009・6.
103. 龍華美咲, 村田直彦, 木村元宏, 麻生裕紀, 阪本孝司, 片岡健介, 加藤景介, 西山理, 木村智樹, 近藤康博, 谷口博之：当院における間質性肺炎の肺移植適応症例について. 陶生医報 25：1-6 2009.
104. 谷口博之：NSIP. 呼吸器疾患最新の治療 2010-2012 p321-323 南江堂 東京 2010・2.

厚生労働科学研究費補助金
難治性疾患克服研究事業
びまん性肺疾患に関する調査研究班
平成21年度研究報告書
平成22年3月11日 印刷
平成22年3月19日 発行

発行所 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業
びまん性肺疾患に関する調査研究班
〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1
TEL 0285-58-7350
FAX 0285-44-3586

編集人 坂東政司
発行人 杉山幸比古
印刷所 鈴木印刷株式会社
〒321-0901 栃木県宇都宮市平出町3751-11
TEL 028-660-3555
